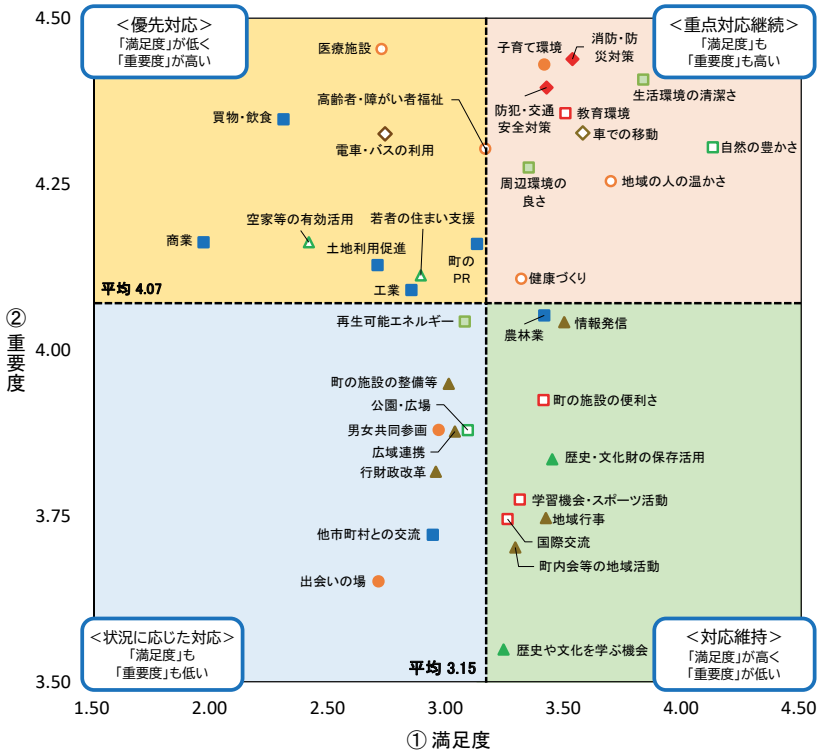
町民アンケートから見た町の施策の「満足度」「重要度」

町民意向とニーズの実態把握を行い、施策の基本的方向性・実施目標などに反映させることを目的に、町民アンケート調査を実施しました。

日常生活から見た町民の町の施策に対する「満足度」「重要度」は表の通りです。

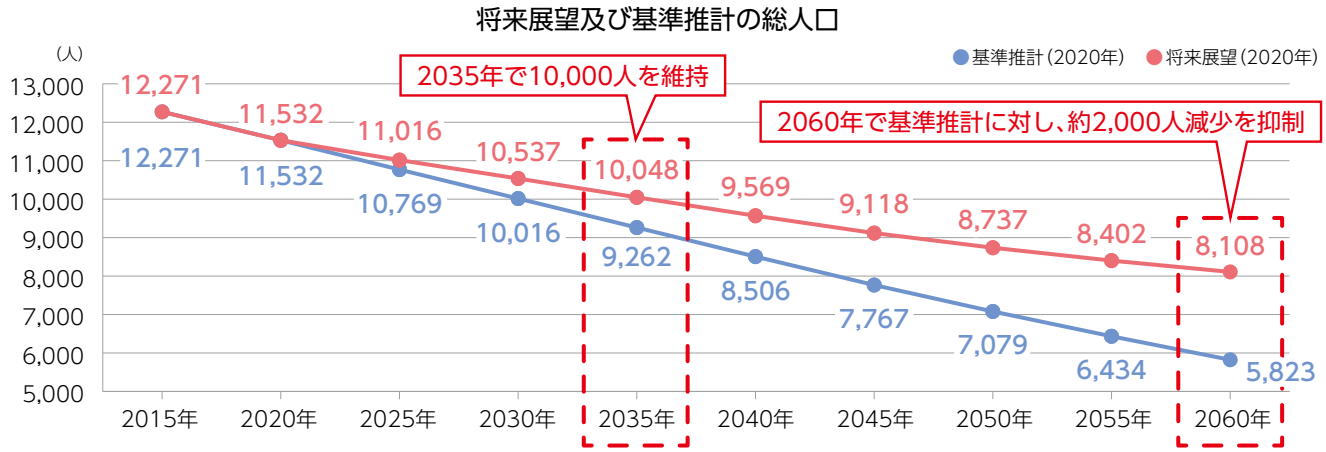


左上が重要度が高いが満足度が低い優先対応が必要な施策
右上が重要度と満足度がともに高い、継続が必要な施策です

「満足度」「重要度」の関係を表す領域線は、それぞれの平均値を示しています。

- ■：産業・雇用
- ●：結婚・出産・育児・子育て
- □：都市緑地と景観
- ○：健康・医療・地域福祉
- ▲：歴史まちづくり
- ◆：防災・生活安全
- △：移住・定住
- ◇：道路・交通
- ▣：環境衛生・居住環境・住宅
- □：教育・生涯学習・スポーツ
- ▲：住民自治・行政機能・財政運営など

人口の将来展望（人口目標）



【人口の将来展望（人口目標）】

自然動態及び社会動態の両面から人口減少が進み、このままの状態で推移すると、2060年には、人口が6,000人を下回るまで減少すると推測されます。

平成27年国勢調査の結果や令和元年に実施した町民アンケート結果などを反映した「将来展望（2020）」を算出し、人口目標を左記の通り設定しました。

本町が目指す将来像に係る自然減少・社会減少対策を講じ、将来展望として

2035年（令和17年）に人口10,000人維持を目指します。

①自然動態　2030年（令和12年）に町民の希望出生率「**2.07**」

2019年（令和元年）に実施した町民アンケート調査の結果から算出された希望出生率の達成を目指す。

②社会動態　2030年（令和12年）に若年層の「**社会増減 ±0（ゼロ）人**」

2021年以降は、移住・定住施策や伊達桑折インターチェンジ周辺及び福島蚕糸跡地の再開発などの地域活性化施策の効果により、2030年までに若年層の社会増減を段階的に±0人にする。